



若竹だより



【巻頭言】

集 団 行 動

一人は教育に依って成長する一

園長 野田大燈

11 月は行事の目白押しでした。

9 日の土曜日には歌手の一青窈さん（ひととよう）が訪れて下さったので、みんなで一青窈さんの持ち歌「ハナミズキ」を歌いました。

でも余りにも音程が外れ過ぎていたためか、窈さんは笑いをこらえながらラジカめのボリュームを落として一緒に歌ってくれました。

学園玄関前での記念写真を終えて教室に集まった子供たちに一青窈さんが話しました。「私も小さい頃にととても悲しく辛い思いをしました。その事があったからこそ今の私があると思っています。皆さんも辛いことや悲しいことがあると思いますが、負けないでしっかりと生きて下さい」と言われたのがとても印象的でした。

10 日の日曜日には香川で震度 6 の地震体験を行いました。

なぜ震度 6 か、と問いますと「南海トラフ大地震でも想定される震度が 6 です」とのことでした。

実際に園生達と地震体験をしました。予想を超えた揺れに日頃やんちゃな園生達も顔が引きつってしまいました。

震度 6 の地震が夜間に起きて、園生達を安全に誘導するには…、と想像しただけで身が引き締まりました。

12 日には消防車 4 台と救急車一台が出動して下さり火災訓練が実施されました。

消火のための水源は汚水槽を改修して地下タンクとして雨水を貯水し、地上部はハーブ公園化してあります。

消防訓練には地元の消防隊員も加担して下さい、知り合いの顔も見えたので安心しました。

消防訓練はすべて消防署の指示に従って粛々に行われ、避難の園生はまるで火事の撮影現場に居るような表情で見入っていました。

あつてはならない火事や地震ですが、訓練を通して非常時に備えたいと思います。

15 日は一年一度の恒例ウォークラリーでした。

担当職員の綿密な行事計画に沿って実行されましたが、想定外は朝の雨模様でした。

園生はやる気満々で雨など何のその。ウォークラリーの中止か実行かの最終判断は園長にあるだけに「さあ、園長どうするんだ!」と云う眼差しが迫って来てました。もしも中止にでもしようならもの暴動でも起きそうな雰囲気でした。

小学生から中 3 生 20 数名の集団行動の基本は「安全」です。

小雨の中での決行ですので一部のコース変更を行っての実行となりなした。

ゴーサインが出た時の園生の嬉しそうな笑顔を見てホッとしました。

雨合羽を着けた園生達が雨の中を集団で歩む姿は勇ましくもあつて笑みを誘いました。

核家族化したためのメリットとデメリットで言うならば、集団行動の体験は児童施設に居たからこそ、と思います。将来に於いて必ず役立つと信じています。

—了—

一青窈さん来園！

11月9日(土)歌手の一青窈さんが来園されました。子ども達と一緒に、学園の活動であるスポーツチャンバラをしたり、園生と一緒に歌を歌っていただきました。



素敵な言葉をたくさん頂きました。

スポーツチャンバラも一緒にしていただきました。



とても気さくに子ども達とお話して下さり、最初は緊張していた子ども達も途中からは笑顔で一青さんに質問をしたり、自分の気持ちを伝えたりしていました。子どもたちにとって心に残る貴重な経験になったと思います。

秋の火災予防運動

11月9日からの秋の火災予防運動に合わせて、11月10日に香川県防災センターに防災体験に行き、そして11月12日には学園での防災訓練と被災を想定した夕食作りを行いました。

防災センターでの防災体験では、火災時の消火体験、煙の中を逃げる煙避難体験、暴風体験、震度6強の揺れを体験する地震体験をしました。



実際に体験する事で、関心が深まりました。



震度6強の揺れを初めて体験した子どもも多く怖かったようです。

今回の体験が今後起こるかもしれない大地震や火災、台風などへの心の備えになったと思います。これをきっかけにどんな状況でも落ち着いて命を守る行動ができるよう園生、職員ともに普段の行動から考えていきたいと思います。

防災訓練は高松西消防署にもご協力いただき火災時の避難訓練を行いました。火災が発生したら消防隊の方の誘導で避難する訓練をし、その後、消防隊の方の救助訓練を見学しました。



間近で消防隊の訓練を見て、子ども達も真剣な様子でした。

被災を想定した夕食作りは、電気や水道が使えなくなった時に子ども達が自力で食事が作れるようになる目的で行いました。強風のため野外炊飯の予定を変更し、雨天時を想定した時の活動として室内でレトルトご飯を湯煎で温める体験をしました。初めて作る子どもも多く、説明書をよく読みながら興味津々に活動に参加していました。あたためたご飯にカレーをかけて食べましたが、普段食べているご飯よりも硬かったようで、「もし地震でこのご飯を食べる時は、そのままでは硬いからカレーとかメニューを考えた方がいいね。」と話をしている子どもおり、実際に体験することで子ども達も実感がわいたようです。



お皿にラップをして洗わないでいい工夫もしました。

若竹学級だより

心を育てる体験活動

若竹学級で行っている様々な体験活動を通して、子どもたちのがんばりと心の豊かさにふれることができました。

ダンスレッスン

木曜 2 校時、学校の 1 階ホールは熱気に包まれます。それは、高松市でダンス教室オッパを主宰する松岡令子先生を講師に招いてのダンスレッスンがあるからです。



入念なストレッチの後、いよいよレッスンの開始。Kis-My-Ft2 の「キミとのキセキ」の軽快なリズムに合わせて踊ります。けっこう速いテンポで複雑なステップにもかかわらず、子どもたちはお気に入りの曲なので、がんばって練習に取り組みました。

「感動したわ～。だって、みんなが一生懸命踊っていて…。」

先日、行われたミニ発表会での踊りの様子を見て、松岡先生は嬉しそうに話してくださいました。

踊りと音楽は、古くから人間の暮らしとは、切っても切れないものです。そんなことをこのダンスレッスンを通して改めて実感することができました。

ものづくり

技術家庭科の実習で本棚を作りました。

A 君ののこぎりやかなづちの扱いぶりは見事の一言に尽きます。大工さん顔負けでした。すばやい作業を終えた後、手間取っている友だちにそっと手をさしのべている様子にも感



心させられました。

作品が完成し、嬉しそうに抱きしめながら部屋へ持って帰る後ろ姿を見て、とても温かい気持ちになりました。

造形活動

「唇と舌、歯を強調した作品が、素晴らしいですね。子どもの創造力が豊かですね。」美術科では、カラー粘土を使って「ヒト」をテーマにして粘土細工に取り組みました。



できあがった作品を見て驚きました。作品写真を見た陶芸家もうなるできばえでした。小さなパーツを組み合わせ、緻密な制作ぶりに普段の学習では発見できなかった子どものよさにふれることができました。

土をひねると、心が落ち着くと聞いたことがあります。今後は、陶芸活動にも挑戦してみたいと考えています。

ウォークラリー

11 月 15 日(金)に毎年恒例のウォークラリーを行いました。今年は途中で電車に乗るという社会体験も組み入れ普段学園ではなかなか出来ない経験もしました。



全員ゴールする事が出来ました!

スタート時点では雨が降っていましたが、歩き始めると太陽が見えて気持ちよく高松市内を歩くことが出来ました。途中のチェックポイントでは香川県に関することや、最近のニュースなどのクイズに答えながら歩きました。正解すると若竹通貨をもらい、たまった若竹通貨でお菓子の競りを行い、おやつに食べました。途中で足が痛くなった子もいますが、最後まで完歩し、子ども達の表情には達成感が見られました。帰りにはバイキングをたくさん食べてお風呂に入って学園に戻りました。学園に着いたころには疲れてそのまま休む子が多かったです。子ども達にいい経験になったと思います。

ウォークラリー感想インタビュー!

【一番楽しかったのは何でしたか?】
一番楽しかったのは競りでした。
【どんなところですか?】
好きなお菓子が呼ばれたときに、値段をどんどん上げていって、欲しかったお菓子を買うことが出来たときにうれしかったです。
【最高金額は?】
9000 円でジュー C (ラムネ) 買いました。あとは 500 円でチュッパチャップスを買いました。

<防災体験後の感想文紹介>

『防災体験をして、消火体験で消火器を使って火を消せたのがよかったです。分かった事は、火を消す時は火の根元を消すことです。地震体験では震度 6 強を体験した時は、びくびくしてこれがいつもの日常生活で起きたらどうしようと思いました。』

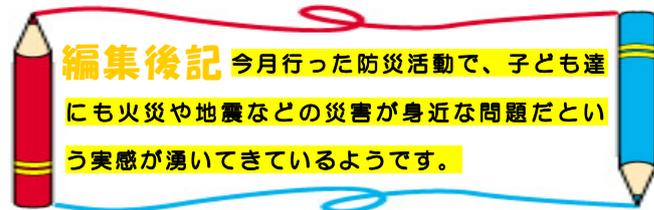
『今日は地震の体験をさせてもらってありがとうございました。地震の体験は揺れすぎてびっくりしました。家具を固定していなかったら倒れたり動いたりして大変だと分かりました。地震が来た時は、自分自身を守ろうと思いました。』

~御寄附ありがとうございました~

□たまや様 お菓子、調味料等

11月行事

- 9 日 一青窈さん来園
- 10 日 図書館
防災センター
- 12 日 防災訓練・野外炊飯
- 15 日 ウォークラリー
- 21 日 買物学習
- 23 日 かがわ産業教育フェア(中学生有志)
- 24 日 図書館



編集後記 今月行った防災活動で、子ども達にも火災や地震などの災害が身近な問題だという実感が湧いてきているようです。

第 238 号発行
〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192
TEL 087-882-1000 FAX 087-882-1160
ホームページ <http://netwave.or.jp/~wakatake/>
Eメール wakatake@mail.netwave.or.jp
編集兼発行者 若竹学園 編集委員
発行責任者 野田 大燈